

10月5日(月)

園長先生に2つの絵本 を読んでもらいました。

きく組



園長先生、ありがとうございました!

きく組さんは、園長先生に2つの絵本を読んでもらいました。1つは、「ごろはち だいまようじん」。もう1つは、「ももの里」でした。どちらも、昔々の日本を舞台にしたお話です。「きく組さんなので、少し難しいお話に挑戦してみようね」ということで、子どもたちは集中して耳を傾けていました。

「ごろはち だいまようじん」

いたずら者のためきの「ごろはち」がいたずらをしないように、村の人たちはごろはちを大明神として奉っていました。ある時、村に鉄道ができました。しかし、汽車の前に飛び出した村人をかばい、ごろはちは命を落としてしまいます・・・。「『きつねうどん』って何だろう?」「『鉄道』って何かな?」と難しい言葉も園長先生と一緒に考えていました。

「ももの里」

桃の名産地の「ももの里」では、「タケ」が生まれて以来、10年間も男の子が生まれていませんでした。久し振りに生まれた男の子は「太郎」と名付けられ、タケは太郎を大切にしていました。しかし、ある時、里が鬼に襲われてしまいます。タケは太郎を大きな桃の中に隠し、鬼から守ります。太郎の入った桃は川を流れ・・・。鬼が登場する場面では、目を見張り、ドキドキしながらお話を楽しんでいました。流された桃の行方も、みんなで想像して、面白かったですね!

園長先生にお礼を言った後は、ひとりひとりタッチをしてお別れをしました。「次は〇〇がいい!」という声も飛び交い、早速次回の読み聞かせを楽しみにしているようでした!!